

【テーマ】「教員と職員がそれぞれの目線で語る遠隔授業への取り組み ～5大学の事例紹介からいいとこ取りしてみませんか～」

【主催】次世代情報システム検討分科会 活動報告

日時：2020年12月18日（金）14:00 -15:30
場所：オンライン分科会
出席者：65名

1. 研究内容

今回、「教員と職員がそれぞれの目線で語る遠隔授業への取り組み～5大学の事例紹介からいいとこ取りしてみませんか～」をテーマとして、次世代情報システム検討分科会を開催しました。
前半は関西地区の5大学より、実施授業の形態、設備やインフラの状況、また授業サポートや学生サポートの状況に関する取り組みなどをご紹介をいただき、後半は課題等を題材として、グループに分かれての情報交換を行いました。

2. スケジュール

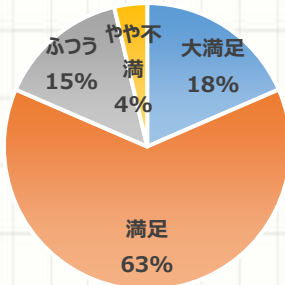
14:00～14:05	分科会開始 ・事務連絡等
14:05～14:30	<p>テーマ「教員と職員がそれぞれの目線で語る遠隔授業への取り組み ～5大学の事例紹介からいいとこ取りしてみませんか～」</p> <p>○開催テーマに関する取組み事例の5大学のご紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学情報メディアセンター事務室 「遠隔授業実施にかかる教員および学生支援体制の整備について」 ・京都産業大学情報センター 「対面とオンラインを併用した授業実施に伴う設備整備について」 ・神戸学院大学図書館・情報支援センター 「インフラ整備が追いついていない大学が直面したオンライン授業」 ・龍谷大学文学部教務課 「コロナ禍における学生・教員（授業）支援の取り組みについて」 ・大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部教授 「ハイブリッド授業を実践して-授業は対面じゃないとダメなのかを考える-」
14:30～15:15	○グループに分かれての意見交換会
15:15～15:30	○全体での情報共有とまとめ・分科会終了

【オンライン分科会の様子】



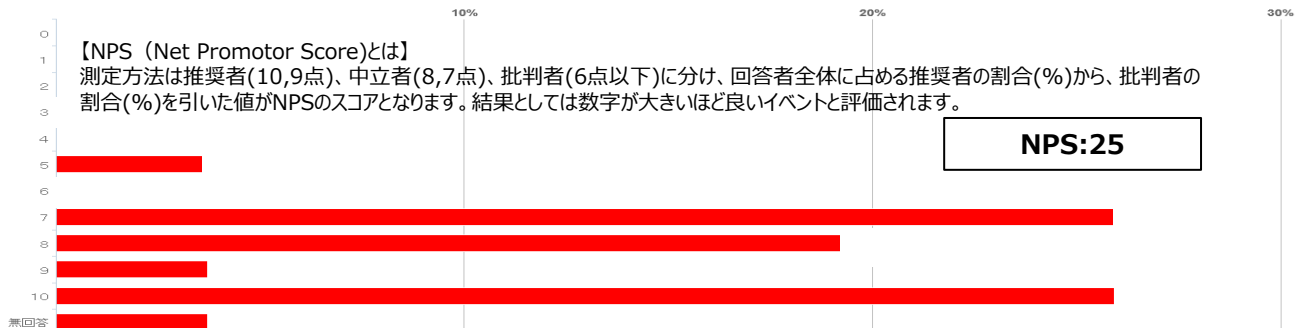
3. アンケート結果について

■ 本日の「プログラム内容」について満足度をお選びください



- ✓ 他大事例を知ることができた。
- ✓ 様々な事例を知れたので
- ✓ 他大学の課題やその解決案などを共有できたこと
- ✓ 事例紹介が短時間でも示唆に富むものが多くあり、幸いなことにそれに対する質問をすることができた。
- ✓ 具体的な事例に触れることができ、また生の声も聞くことができ、大変有意義でした。
- ✓ 各大学の取組が確認できて大変参考になりました。
- ✓ 各大学の正直な意見、現状がわかった
- ✓ 来年度の授業体制の参考になったため。
- ✓ 各大学の苦勞と取り組みを知ることができた。
- ✓ 今春は各大学共、コロナ禍に対する緊急対策としてオンライン授業を取り入れました。本学では3年かけて導入を検討するところを3週間で動き出す必要に迫られ、既存情報資産を駆使してギリギリ間に合わせました。他大学の事例や現場に立つ方々からの生の声を聞くことができたので良かったです。
- ✓ オンラインでのディスカッションが対面と比較すると内容が浅く感じました。来年度の開催の時は、何か工夫をしたいと思います。
- ✓ 初対面でのWebを使ったグループディスカッションは難しいから。
- ✓ 途中でネットワークの不具合により退出させて頂きました。
- ✓ 他大学の具体的な事例を聞くことができ、また多くの大学の方から状況を聞くことができたため。
- ✓ 他大学の具体的な取り組みが聞けたから
- ✓ オンラインのため参加しやすい
- ✓ 内容として不満はないが、他大学の動向において目新しい発見もなかったため。
- ✓ オンライン授業やハイブリッド授業の実情を学校様から直接お聞きする事が出来た。
- ✓ 他組織との情報共有ができました。
- ✓ COVID19で大学の状況が分からないため、生の声が聴きたかった
- ✓ 他学様の実践例を拝聴出来たため
- ✓ 大学が直面してる課題について確認することができてよかった。

■ 今回の分科会を、どのくらい他の人に推奨したいとおもいますか？ 0(おすすめしない) ~10(おすすめしたい)



- ✓ 内容的に時間があるなら参加したほうが良いと勧められるような内容であったため。
- ✓ 期待通りの内容だったので
- ✓ 他大学での取り組みについて情報収集ができるため
- ✓ COVID-19対応という進行中の事態への対応であったこともあり、現場の生の声を伺うことのできる貴重な機会であったため。
- ✓ 上記の通り具体的な事例に触れ、率直な意見を聴くことが出来たため。
- ✓ 分科会の開催がもっと増えてほしいから
- ✓ 大変勉強になったので、同僚にも薦めたい。
- ✓ 本分科会は関西の大学が比較的多めなので、より身近な事例として参考にしやすいため。
- ✓ 情報センターに限らず、様々な立場の方が参加されてお話しできる場はあまりないので、テーマによりませんが貴重だと感じます。
- ✓ 他大学の事例を聞く貴重な機会だから
- ✓ コロナ禍において他大学の方と交流をしたり、情報交換する機会が少なくなっているため。反面、本来は情報が必要な状況となっているため。
- ✓ 他大学の考えを知る良い機会となる。
- ✓ 現状の運用としては致し方ないオンライン授業であるが、コロナ収束後は対面授業の方式をメインとしてオンラインは効率化を図るものとして討議したい。
- ✓ 情報共有
- ✓ 大学間での双方向のコミュニケーションをとることができるという点で貴重な取り組みかと思います。
- ✓ 旬のテーマで主要大学の教職員の立場での具体的な情報を収集できるため。

■ 本日の分科会を実施して、開催テーマに対して得られた研究成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。

- ✓ 悩みの共有はできたが、次年度以降についてさらによくわからなくなりました。
- ✓ COVID-19対応下での大学の講義に対する、各大学の問題点から対応方法、特にサポート体制の実現方法、授業実施の方法、教員・学生の受け止め方などの事例について、学ぶことができた。本学ではまずは授業を実施・受講のインフラ整備をどのように整えて行くかという「Phase1」から見直す必要があるが、その先の段階を見通す上で、先行事例のご紹介をうかがえたことが、大変、参考となる。
- ✓ 環境、体制、BYODなどの貴重な情報を得ることができました。
- ✓ 大変参考になりました。できればもう少し規模の小さな大学の事例があればよりありがたかったです。
- ✓ 大学間の連携と情報共有を活発にしていく必要がある
- ✓ 支援体制など
- ✓ アフターコロナでの授業スタイルをどうしていくべきか、今から真剣に取り組まないと大学間競争に取り残されていくのではと感じた。
- ✓ 初期の時点でチームなどシステムを限っていたことがわかってよかった
- ✓ 正直、時間が短く課題を深め合うことはできませんでした。でも、他大学の取り組みやそれぞれの現場の様子が垣間見られた点は良かったと思います。
- ✓ 板書をWeb会議にうつす方法についての課題と、音声の収集に関する課題について
- ✓ 他大学の工夫を知り、自らに活かそうなヒントがあった。
- ✓ 遠隔授業の取り組みに関しては、私立大学と国公立大学の差は小さいこと
- ✓ 他大学のオンライン授業における動作環境を知る事ができた。
- ✓ 実際のオンライン授業を行う為にはネットワークの課題がまだまだ多かった事。以外と学生はオンラインでも満足している感があった事。
- ✓ オンライン授業と対面授業を共存することの困難さ まだまだPCやネットワークなどの環境整備ができていない。

■ 次回以降取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- ✓ ハイフレックス授業の展開
- ✓ COVID-19が収束したとしても、これからも、より多様な受講機会を提供するハイブリッド授業は継続される可能性が高いと思われるので、引き続きハイブリッド授業に関わる議題を取り上げて欲しい。(企業様ではソリューションの提供のアイデアや、授業を会議・意思決定といった風読み替えていただいても良いかもしれない。)
- ✓ コロナ禍の終息も見えませんが、遠隔授業に関するテーマを希望します。
- ✓ オンラインで実施された授業の質の保証とその評価をどう実践したのかなどを取り上げていただければ幸いです。
- ✓ 今後、大学が変わっていかねばならない点、変わってはいけない点
- ✓ コロナ禍において状況は日々変化しており、課題や悩みも日々変化しているため、このような場をもっと設けて欲しい。時間も長く取って欲しい。
- ✓ DXへの対応状況(計画等)
- ✓ 他大学におけるAIに関連する取り組みについて
- ✓ DXの取組みなど聞いてみたいです。

4. 参加校 [24校29名] ・参加企業[8社36名] ・参加総数[65名]

大阪大谷大学[1]	神戸学院大学[1]	広島国際大学[1]	株式会社インフィニテック[2]
大阪経済大学[2]	芝浦工業大学[1]	福岡大学[1]	株式会社システムデザイン[1]
大阪工業大学[1]	順天堂大学[1]	文京学院大学[1]	株式会社ディスコ[1]
常翔学園[1]	女子栄養大学[1]	龍谷大学[2]	電子システム株式会社[1]
鎌倉女子大学[1]	摂南大学[2]	流通経済大学[2]	東通産業株式会社[3]
関西国際大学[1]	専修大学[2]	同志社大学[1]	ファーストスタープロジェクト[1]
京都産業大学[1]	帝京大学[1]	日本工業大学[1]	富士通株式会社[20]
共立女子大学[1]	東洋大学[1]	九州工業大学[1]	富士通Japan株式会社[2]

5. 所感

後期授業も引き続き遠隔授業を継続する大学が多い中、前期授業で見た課題やその対策、対面と遠隔を同時に行うハイブリッド授業などの新しい授業形態への対応、また、学生の遠隔授業に対する思いなどの共有を目的として、今回の分科会を企画しました。

オンラインでの分科会開催ということで、限られた時間の中でどれだけのことのできるのか運営委員で検討した結果、5大学の発表をオムニバス形式で行い、オンラインでのグループ討議という初めての試みにも挑戦しました。今回は参加総数が65名と多くの方々にご参加いただき、関心の高さが伺えました。

各大学とも、遠隔授業の実施に同じような悩みを抱えながらも、自大学の設備施設を最大限に活かしながら、限られた予算や人員で創意工夫しながらコロナ禍を乗り切るために苦勞されていることがよくわかりました。

オンラインでのグループ討議は、一人でも多くの参加者の方々の声を拾おうと試行錯誤しながらの進行となりましたが、やはり対面（リアル）のようにはいかず、日頃の教員や学生の苦勞を実感しました。

次世代情報システム検討分科会では参加者の皆さまからいただいたご意見やアンケート結果を参考に、次年度のテーマや実施方法を検討しています。引き続き多くの皆さまからのご参加をお待ちしています。

【次世代情報システム検討分科会 運営委員】